

「勇気を出しなさい。」(ヨハネによる福音書16:33)

「溢れる勇気」

チャプレン 吉川光太郎

アンパンマンのクライマックスはバイキンマンの攻撃によって始まります。アンパンマンの顔が濡れたり、カビが生えたりして弱くなるというのが、私が観ていた頃のセオリーでした。力が出ず、そこに座り込んでしまうアンパンマン。迫りくるバイキンマンの破壊兵器！アンパンマン一巻の終わり！しかしそこに、アンパンマン号に乗ったジャムおじさんたちがやってきて、バタコさんが新しい顔をアンパンマンに向けて投げつけます。そして顔が入れ替わったアンパンマンは光輝きながらこう叫びます。「勇気 100 倍！アンパンマン！」。勇気に溢れたアンパンマンはすさまじい力でバイキンマンを遙か星の彼方まで吹き飛ばしてしまうのでした。勇気を出して立ち上がること。それが勝利への第一歩であるというメッセージがアンパンマンには込められています。

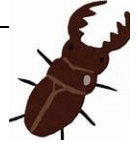
さて、今月の聖書の御言葉は「勇気を出しなさい」というものでした。これをそのまま読もうとするならば、「とにかく勇気を出しなさい！くよくよするなよ！」という、「励まし」というよりは「お叱り」の声に聞こえてきます。あなたが落ち込んでいたり、座り込んでいたり、苦しい思いをしているのは、あなたが勇気を出していないからだ！だから勇気を出しなさい！といった具合に。そりゃあ、アンパンマンのように顔を取り換えて勇気が湧くならば苦労はありません。でも現実には様々な重荷がのしかかり、心も体も疲れ切っていて、勇気を出すことなどできずに苦しんでいるのです。目の前にある課題に恐れを抱いているのです。どうすれば勇気を出し、立ち上がることができるのでしょうか。

この御言葉をお語りになっているイエス様は、私たちを突き放し、上からものを言われる方ではありません。イエス様は神様でありながら、私たちよりも頭を低くし、仕えてくださる愛のお方なのです。「勇気を出しなさい」という御言葉の後には、このように続いています。「わたしは既に世に勝っている」。これは、イエス様がこの世の全ての事柄に勝利されたという約束です。何のためにそんな約束をしておられるのでしょうか。それはあなたの心を支配する恐れや不安を取り除くため。あなたを勇気溢れる存在に作り変えるためなのです。あなたが恐れているその人、物事にだって、私は既に勝っている。だから私と共にいるあなたが負けることはないのだ。イエス様は私たちに必ず最善の道を備えてくださるのです。それは必ずしもあなたが望んだものではないかもしれませんが。しかし、振り返った時「あれで良かったんだ」と喜ぶことができる道です。ですから、どのような苦しみも困難も、イエス様の御言葉に従うならば、必ず乗り越えることができるのです。ここで言われている「勇気」とは「無理やり絞り出す勇気」ではなく「確信によって溢れる勇気」です。イエス様が一緒にいてくださるならば、大丈夫！この高らかな賛美が幼稚園に、それぞれの家庭に溢れますように。





保育理念	受ける愛 与える愛
	愛されていることを知り・愛される者となるために



「心ゆくまで」

最近のニュースの話題は高齢者向けのワクチン接種開始と集団接種開始、職域接種開始それに伴い東京オリンピック開幕にあたっての安全、安心対策です。私は幼稚園職員の中で一番最初に第1回目のワクチン接種を受けてきました。7月には、希望者職員全員が県特設会場接種枠配分のワクチン接種を受けられることになりました。接種を受けたからとは言え今後の世の中の状況は予想が付きませんが、まずは安心して子どもたちと接することが出来るようになるかなと思っています。

さて、今年は「梅雨入り」がいつだったのか、本当に「梅雨に入ったのか」と思うような気候です。でも梅雨が明けると眩しい陽射しと抜けるような青空と暑さが訪れることでしょう。

この季節は特に心身を開放して水、砂、土の心地よさをたっぷり味わってほしいと思っています。先日、園庭の凸凹を改修するためにグラウンド用砂1.5トンを、庭の真ん中に運搬してもらいました。まずは子どもたちが十分に遊んだ後、子どもたちと共に園庭に撒く作戦です。案の定、子どもたちは目を輝かせて砂山に群がってきました。最初は土の感触を手で触り、足で踏み、スコップで掘り、山にし、水を入れ、足でこね、団子にする等土そのものの素材を楽しんでいました。そのうち砂場でいつも使っていた雨樋や牛乳パック等を持ち込み水を流すことへと移っていったのです。高い所から低いところに流れる水の性質に気付き、傾斜や水の量による流れの違いそして流す水の量により流れ方が変化する面白さに夢中になっていきました。バケツで水をひたすら運ぶ姿、そのバケツの水を受け取りひたすら流し続ける姿、途中で水がこぼれる樋を何とかしようと修正する姿、流れてきた水を砂山に程よくいきわたらせようとする姿等それぞれが集中して遊んでいました。小さいクラスの子もたちは、大きいクラスの子もたちが作ってくれた水たまりを「温泉」と称し水を足したり、中に入っては「気持ちいいね」「にゆるにゆるするね」「あったかい」「こんなになっちゃった」とどろどろの手足を面白がって友だちや保育者に見せていました。片付けの後では「楽しかったね」「面白かったね」とつぶやく子どもたちでした。面白そう（興味・関心） わあ こんなになった（驚き・感動・楽しさ） うまく流れるようにしたい（共通の目的） 水入れるよ（意欲・提案） うまく流れないな（葛藤） じゃあいっぱい流してみる（折り合いをつける） どうしてかな、どうすればいい（気づき・探求心・試行錯誤） 上手くいかなくても諦めない（挑戦） 以上のような心の動きがあったことを知る活動でした。今後どのように展開していくかを楽しみにしているところです。

心も頭も体も一緒に育つのが乳幼児期の特徴です。乳幼児期は、知識を教えられて身に付けていく時期ではなく遊びながら学んでいく時期です。自分がやってみたい遊びを選択し、自ら遊びだし、遊び込む中で遊びの楽しさや、面白さが深まり広がることで満足感や達成感を味わうことでしょう。心ゆくまで遊ぶその過程で生まれた意欲や感動、培われた社会性や生きる力は生涯にわたる学びの基礎になることでしょう。幼稚園では、子どもがよりよく遊べるように様々な環境を整え援助していきたいと考えています。

「心ゆくまで」遊べる環境や時間を保証できるように、努めていきたいと思っています。